

院内調剤内規

平成 28 年 7 月

平成 29 年 3 月改訂

加古川市民病院機構

加古川中央市民病院

医薬品の取扱いについて

[1] 処方箋記載

①内服薬は 1回量と1日量を併記、投与日数を記載する

Rp1. カロナール錠(200mg) 6錠
1回2錠 (1日 6錠)
3×毎食後 7日分

Rp2. アレビアチン散10%(100mg/g) 300mg
1回100mg (1日300mg) 【原薬量】
3×毎食後 7日分

②頓服薬(内服)は1回量と回数、用法を記載する

Rp3. ジクロフェナク錠(25mg) 2錠
疼痛時 5回分

③隔日服用の場合は、服用実日数を記載する

Rp4. プレドニン錠(5mg) 1錠
1×朝食後 14日分 隔日服用(1日おき) *14日分調剤(28日間で服用)

Rp5. ワーファリン錠(1mg) 1錠
ワーファリン錠(0.5mg) 1錠
1×朝食後 (隔日) 14日分
Rp6. ワーファリン錠(1mg) 1錠
ワーファリン錠(0.5mg) 1.5錠
1×朝食後 (隔日) 14日分

*Rp5とRp6を隔日服用(28日間で服用)

④外用薬は、総量を記載する

Rp7. ジクロフェナクサポ(25mg) 30個
1回1個、1日2回まで

*使用方法はコメント欄を使用して記載する

[2] 単位

「g」・・・・・・・・・・「製剂量・秤量単位」

Rp8. マーズレンS配合顆粒(1包0.5g) 1.5g
3×毎食後 14日分 *21g秤量

「mg」・・・・・・・・・・「成分量」

Rp9. セフカペンピポキシル細粒(100mg/g) 100mg
3×毎食後 7日分 *7g秤量

[3] 調剤

A. 内用薬

1. 錠剤・カプセル剤

1) 原則として処方箋の記載通りの剤型で、可能な限りヒートシール調剤とする。

2) 服用回数で割り切れない場合は、個数の配分を指示する。

Rp10. (5mg) プレドニン錠 5mg 4錠
0-2-1-1-0-0 で投与
朝：2錠
昼：1錠
夕：1錠 (1日4錠)
3×毎食後 7日分

3) 半錠・1/4錠にしたものを分包する。

Rp11. ミカルディス錠 (40mg) 0.5錠
1×朝食後 14日分

4) 半錠、1/4錠を含む不均等の場合は整数錠も含めて分包する。

Rp12. マドパー錠 4錠
0-1.5-1.5-1-0-0 で投与
朝：1.5錠
昼：1.5錠
夕：1錠 (1日4錠)
3×毎食後 30日分 *1包化で調剤

・整数錠のみの不均等の場合はヒートにて調剤する。

Rp13. プレドニン 5mg錠 6錠
0-1-2-3-0-0 で投与
朝：1錠
昼：2錠
夕：3錠 (1日6錠)
3×毎食後 10日分 *ヒートで調剤

Rp14. ハーフジゴキシン KY0.125 0.5錠
フロセミド錠 20mg 1錠
スピロラクトン A錠 25mg 1錠
1×朝食後 14日 *1包と各1錠で調剤

5) 「1包化」の指示がある場合、

処方日数と用法が同じ場合、Rpを越えて服用時間が同じ薬剤を1包化する。

Rp15. ロキソプロフェン錠 60mg 3錠 3×毎食後 5日
Rp16. ファモチジン D錠 20mg 2錠 2×朝夕食後 5日 *Rp15と16を1包化
Rp17. パルサルタン 40mg 1錠 1×朝食後 10日 Rp17は単独で1包化

6) 2規格採用がある薬剤については、
規格の大きい薬剤は薬剤名の前に規格を表記する。

- ・ランソプラゾール OD錠【15 mg】
- ・【30 mg】ランソプラゾール OD錠

3 規格の薬品の場合

- ・【1.25 mg】カルベジロール
- ・カルベジロール 【2.5 mg】
- ・【10 mg】カルベジロール

7) 他の薬とは薬袋を別にする薬剤

- ・下剤
- ・麻薬
- ・抗がん薬
- ・免疫抑制薬
- ・抗ウイルス薬
- ・覚せい剤原料 例) エフピー
- ・睡眠薬
- ・頓服薬
- ・品質上(吸湿、遮光等)バラ錠に出来ない薬剤 例) ケーサプライ

2. 散剤

1)ジゴシンの成分量で1日0.1mg未満の場合は5000倍散(約束処方項参照)を使用する。

2) 散剤は、できる限りヒートシールを優先して調剤する。

Rp18 ベリチーム配合顆粒 9.0g

3×毎食後 30日

*ヒートを使用して“1日3回 1回3包”

(当院採用薬)

- ・マーズレンS配合顆粒(1包0.5g)
- ・シナール配合顆粒(1包1g)
- ・ベリチーム配合顆粒(1包1g)
- ・テプレノン細粒10% 50mg/g (1包0.5g)
- ・ラックビー微粒N(1包1g)
- ・トリノシン顆粒10%(1包1g)
- ・ビオフェルミンR散(1包1g)
- ・ミヤBM細粒(1包1g)
- ・スクラルファート細粒(1包1g)
- ・S・M配合散(1包1.3g)

3) 同一処方に2種以上の散剤処方がある場合、秤量の必要がある薬剤のみを秤量する。

Rp19. ベリチーム配合顆粒 3.0g

フェノバル散10% 1.2g

3×毎食後 10日

*ベリチーム配合顆粒はヒート
フェノバル散10%は秤量
“1回各1包”

Rp20. ベリチーム配合顆粒 1.5g
3×毎食後 10日

*計量して“1回1包”
当院は1g ヒートのみ採用

4) 散剤の不均等配の場合

Rp21. プレドニゾロン散 10mg
0-6-4-0-0-0 で投与
朝：6mg
昼：4mg (1日 10mg) 【原薬量】
2×朝昼食後 7日分

*朝、昼の区別をつけ、薬包に用法を印字、
薬袋を分ける。

- ★散剤の中に錠剤は入れない(錠散1包化はしない)。
- ★配合不可の薬品 (調剤指針に従う)
 - ・配合により湿潤または、効果の減ずる恐れのある場合は、組み合わせ散剤とする。
- ★賦形
 - ・1包が0.1g未満の時は、適当な賦形剤を0.1g加える。
 - ・ドライシロップには賦形剤を加えない。
 - ・賦形には通常、乳糖を使用し、薬品名と賦形剤名(乳糖0.1g)を薬包紙に印字する。
ただし、イスコチン、トリメブチンマレイン酸塩錠はバレイショデンプンで賦形する。
 - ・乳糖アレルギーのDrコメントがある場合は、白糖で賦形する。
 - ・賦形剤と均一に混ざらない顆粒剤(トリノシン顆粒・セレニカR等)には賦形剤を加えない。

3. 錠剤の粉碎・・・「錠剤・カプセル剤 粉碎ハンドブック」を基にする。

・簡易懸濁が適応されない場合

Rp22. フルイトラン錠 2mg 1錠
1回1錠 (1日1錠)
粉碎してください
1×朝食後 10日分

・錠剤が半錠もしくは4分の1錠以外の処方

Rp23. フルイトラン錠 2mg 0.3錠
1回0.3錠 (1日0.3錠)
1×朝食後 10日分
全て粉碎してください

*コメントの選び方で
上記か左記の記載になります

- ・半錠で処方されているが均一に割ることができない錠剤の場合
- ・光により分解するものや、吸湿性の大きい薬剤はアルミ袋、チャック付ビニール袋(乾燥剤)に入れる。
- ・カプセルは一回量がカプセル単位になるものは服用時開封する。
- ・口腔内崩壊錠は服用時溶解する。
- ・同成分で散剤が採用されている場合には処方の変更を提案する。
- ・「錠剤・カプセル剤 粉碎ハンドブック」で粉碎不可、「経管投与ハンドブック」では

水または微温湯で溶かすことができる薬品は病棟・自宅にて用時溶解する。

・分包は一処方ごとに一包化し、薬包に薬品名と錠数を印字する。

このとき薬包に反映はしないが患者氏名、ID Noなども登録する。

3. 水剤

1) 単剤の水剤の場合

薬杯に一回量を表示し、原液で調剤する。

※小児科処方で厳密に量り取る場合は、スポイト等を添付する。

2) 2種類以上の水剤を混合する場合

1回量は1目盛りとし、以下の通りに精製水等で希釈して調剤する。

・成人（15歳以上）は1日100mlに希釈（頓用又は1日1回の場合は1回33mlに希釈）する。

・小児科とこれ以外の診療科の15歳未満は2倍の体積に最も近い目盛りに希釈する。

3) アヘンチンキを含む処方では1回量を1目盛りとし、2倍の体積に最も近い目盛りに希釈する。

4) 希釈水剤は原則として7日分以内とする。

水剤が7日以上処方された場合は、7日分迄は精製水等で目盛り合わせをする。

それ以上は原液で調剤する。

希釈薬剤は赤字でNo1. 原液はNo2. (希釈の仕方を明記)と表示する。

5) 内用液剤には防腐剤は添加しない。

4. 冷所表記

1) 冷所保存薬剤

(例アンヒバ坐薬、コリナコール点眼液)

2) 水で希釈した場合

⇒薬品情報提供用紙に「冷所保存」と記載する。

5. 約束処方

①アセモトール(外用薬)

Rp	サリチル酸	0.5 g
	ミョウバン	1.0 g
	酸化亜鉛	7.0 g
	タルク	7.0 g
(局)	エタノール	10.0mL
	グリセリン	4.0mL
	ハッカ油	0.1mL

精製水を加えて 全量100mL

1. 酸化亜鉛、タルクを秤量し、50メッシュで篩過する。
2. これらを乳鉢に入れ、秤量したミョウバンを精製水に溶かしたものを、乳鉢に一気に加え混和する。(クリーム状)
3. グリセリンを精製水に溶かしたものを徐々に加え、塊がないように十分に混和する。
4. エタノール、サリチル酸、ハッカ油を秤量し、乳鉢に加え混和する。
5. 精製水を加えて混和し、全量を100mLとする。

②止痒水(外用薬)

Rp	(局) エタノール	180mL
	グリセリン	12.5mL
	ハッカ油	6mL
		<hr/>
	精製水を加えて	全量500mL

③ジゴシン5000倍散

赤色着色乳糖(0.1%)を作ってからそれぞれを9.0g測り、ふるい(30号 500 μ m)にかけながらジゴシン散0.1%、乳糖水和原末を混合する。

赤色着色乳糖(0.1%)

Rp	食用赤色2号	0.05g
	乳糖水和物原末(粒状)	49.95g
		<hr/>
	全量	50.0g

Rp	赤色着色乳糖(0.1%)	9.0g
	ジゴシン散0.1%	12.0g
	乳糖水和物原末(粒状)	39.0g
		<hr/>
	全量	60.0g

④キシロカインうがい液100ml

Rp	キシロカインビスカス	20m
		<hr/>
	精製水を加えて全量100mlにする	

<貯法・使用期限：室温保存>

⑤アズノール含嗽水500ml

Rp	アズノールうがい液4%	1ml
	4%キシロカイン液	5ml
		<hr/>

精製水を加えて全量500mlにする

<貯法・使用期限：退色するため使用期限は7日、室温保存>

備考：第1版：平成28年7月作成

第2版：平成29年3月改訂